

(個別目標)

指 標	期限	現状値	目標値
2次医療圏ごとに在宅緩和ケア提供のための協議会を設置	3年以内	—	8医療圏

(6) リハビリテーション・小児がん等への対応

(現状と課題)

がん患者は治療の影響や病状の進行に伴い、次第に日常生活動作に障害をきたし、著しく生活の質が悪化することがしばしば見られることから、がん患者へのリハビリテーションを充実する必要があります。

がん患者の社会復帰を支援するため、地域連携クリティカルパスの活用により、医療機関相互の連携体制の構築を図っています。

がんの治療に際し、広範囲のリンパ節切除を伴う手術後に発症するリンパ浮腫により、日常生活に大きな支障をきたす患者の例も見られます。

また、小児の病死原因の第1位はがんですが、本県における小児がんの年間新罹患数は10～20人で、症例が少ない状況です。国は、平成24年度に全国で15病院を小児がん拠点病院として指定しています。

(取り組むべき施策)

ア がんリハビリテーションの推進

がん患者の生活の質の維持向上を目的として、運動機能の改善や生活機能の低下予防に資するよう、がん患者に対する質の高いリハビリテーションについて積極的に取り組みます。

イ 後遺症対策

がん治療の影響などによる後遺症について、がん患者の相談に対応できるような環境整備に努めます。特に、リンパ浮腫については、医療従事者は患者に対して、リンパ浮腫の正しい知識について十分な説明を行うとともに、適切なセルフケアの指導や相談支援を行うよう努めます。

ウ 小児がん拠点病院との連携

国が指定した小児がん拠点病院と連携を図りながら、小児がん患者や家族が慣れ親しんだ地域に留まり、他の子ども達と同じ生活・教育環境の中で、速やかに適切な治療が受けられるような環境の整備を図ります。また、病気療養児

の教育について、適切な対応がされるよう、教育委員会、医療機関との連携を図ります。

(個別目標)

指 標	期限	現状値	目標値
拠点病院等で、がんリハビリテーションが実施できる体制を整備	5年以内	2病院	11病院

4 がんに関する相談支援と情報提供の充実

(現状と課題)

医療技術の進歩やメディアの多様化に伴い、多くの情報があふれる中、がんに関する正しい情報及び患者やその家族等のニーズに合った情報を、がん患者の立場に立って、様々な手段を通じて提供していく必要があります。

患者や家族のがんに対する不安や疑問に対応するため、拠点病院等に相談支援センターが設置されていますが、病院によって体制や相談件数に大きな差が見られ、また、その存在が患者を含めた県民に十分周知されていないのが現状です。

さらに、患者とその家族のニーズが多様化している中、最新の情報を正確に提供し、精神心理的にも患者とその家族を支えることのできる体制が求められています。

患者やその家族へのサポートのため、患者団体や拠点病院等が主体となって、がんサロンが開設されていますが、開設されている地域が限られており、全県的な広がりはまだ見られません。

また、ピアサポート研修会の開催により、がんに関する悩み等に応えられる人材育成を図っているものの、まだまだ修了者が少ない状況にあり、ピアサポートを実践する人や実践の場も限られています。

(取り組むべき施策)

ア 相談支援センターの機能強化

拠点病院等において、相談支援センターの人員確保、院内・院外の広報、相談支援センター間の情報共有や協力体制の構築、相談者からのフィードバックを得るなどの取組を通じて、相談支援の質の向上を図ります。

また、相談支援センターと院内診療科との連携を図り、特に精神心理的苦痛を持つ患者とその家族に対して専門家による診療を適切な時期に提供するよう努めます。